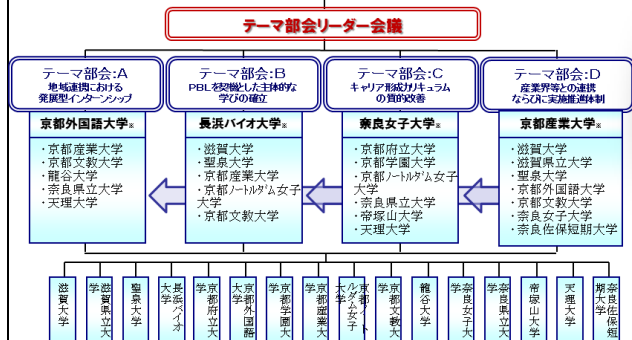
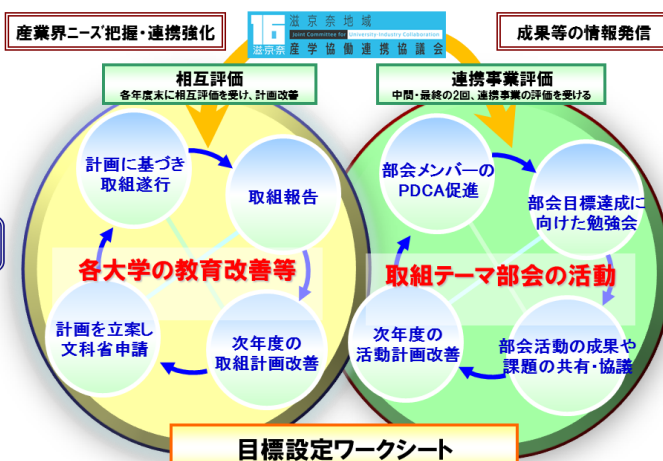
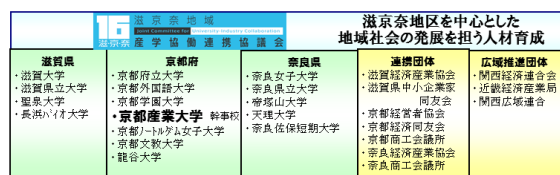


産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
【テーマA】教育改善・充実体制整備 最終評価結果

大学グループ名	京都産業大学グループ
取組名称	滋京奈地区を中心とした地域社会の発展を担う人材育成
取組テーマ	地域連携における発展型インターンシップ PBL を契機とした主体的な学びの確立 キャリア形成カリキュラムの質的改善 産業界等との連携ならびに実施推進体制
取組担当者	京都産業大学 副学長・経済学部教授 大西 辰彦
連携校名 (★幹事校)	滋賀大学、奈良女子大学、滋賀県立大学、京都府立大学、奈良県立大学、 聖泉大学、長浜バイオ大学、京都外国語大学、京都学園大学、★京都産業大学、 京都ノートルダム女子大学、京都文教大学、龍谷大学、帝塚山大学、天理大学、 奈良佐保短期大学 (計16校)

事業概要

本事業は、滋京奈地区を中心とした地域社会の発展を担う人材育成に資するために産業界ニーズを踏まえた教育改善や体制整備を進めるもので、滋京奈地域産学協働連携協議会のもと4つのテーマを設定し、テーマ部会リーダー校会議の管理のもとで運営された。事業運営にあたっては持続可能な教育改善・体制構築を目指し、メンバー大学の成果を相互に評価し合うだけに止まらず、連携事業の評価も行った。
※詳細については、 <http://committee.jikeina-sangaku-renkei.com/> を参照。



最終評価結果<総合評価> A

《コメント》

しっかりとした事業構想計画をもってスタートしており、採択時の留意事項等や自らの連携活動のモニタリング結果を活かし、連携による新たな成果を生み出す活動を推進させている。特に、リーダー校会議の管理のもとで各テーマを運営した体制は効果的であり、追加となった湖東・湖北の4大学の大学間連携には、交流合宿等の実施を通じて顕著な成果が見られる。課題であった産業界と大学側の評価点の取組成果に対する評価の違いについて、3年間で評価方法と評価基準の共有度が高まったことにより、レンジが狭まったことも、本プログラムの成果の一つといえる。加えて、産業界と大学側の評価を丁寧に分析し、情報共有度のギャップの根拠を明確にし、補助期間終了後の事業における評価の課題を明確にした点も優れている。

一方で、大学間、地域間の実力差が大きく、実質的な連携が見られない地域や、具体的な成果物が生み出されない地域もあった。地域連携による事業の場合、幹事校がどのような立ち位置でどこまでグループ全体に寄与すべきか、課題を提示した取組と思われる。今後、各地域の特徴も考慮しながら、大学と企業の意見交換会を超えた、カリキュラムの融合等の、真に協働的なつながりの体制構築が具体的に進むことを期待する。